

# 『リーダーズとしては、地味ですが、 いろいろ学術活動をしています』

2021年も新型コロナウイルスで始まりました。緊急事態宣言が出ました。でも、国民は新コロに慣れてしまって、大変だ、という意識が希薄になってきているような感じ。人出も減らないし。本当、どうなるのでしょうか。ワクチンも、なんか、不安。東京オリンピックを開催する？開催は断念するべきでは？断念することこそ、勇気ある決断だと思います。2020年は高校野球も全部中止したのですから。高校野球とオリンピックは違う？そうかもしれませんが、昨年より新コロ状況は明らかに悪いのです。

1月のニュースの一つは、アメリカの大統領がトランプからバイデンに代わったこと。どうでもいいけど、トランプには潔さが無い、かなりがっかりでした。アメリカには他に人材は無いのか？国としての力がなくなった？かという日本も同じ。菅総理、大丈夫？大丈夫ではないですね。参議院議員の安里氏、あれだけのことをしたのに、まだ、議員を続ける？緊急事態宣言中、国会議員が会食？銀座で豪遊？ひどい話。大相撲は面白かった。優勝した大栄翔、おめでとう。大関正代は、なんか、違う。大関になる前の気合がなくなっている。やっぱり期待は照ノ富士。貴景勝は身長割りに体重が増えすぎ。175cmで183kg。BMIは60。だから私が言ったでしょう？北の富士氏も同じように言っています。それから、観客はみんなマスクをしているのに、呼び出し、審判、土俵回りで働いている人たちは、なぜ、マスクをしない？マスクをしなくてもいいのは力士だけ、とするべきです。行司は・・・。感染対策として甘い。あれだけコロナ陽性で休場した力士が多いのだから。

千里金蘭大学の臨床医学の講義が終了。後期試験も終わりました。毎週実施している小テストの中から出すと宣言して試験問題を作成。小テストと全く同じ問題なので、勉強すれば絶対に合格できます。臨床医学って、最初は、とにかく暗記するしかないと思います。この時にいろいろな用語などを暗記しておけば、その後、その用語が出てきた時に理解できるようになる、そんなものです。試験範囲は教科書のここからここまで、というのではなく、毎週実施している小テストの中から同じ問題を出すのですから、私はやさしい講師だと思うんですよ。全員合格？いろいろな考え方の学生がいます。自分の学生時代を振りかえってみました。でも、これだけ覚えたら合格という試験なんだから・・・。講義の感想を書いてもらいました。私の講義スタイルを喜んでくれている学生もいますが、栄養士に英語はいらぬ、わけのわからぬ自慢話ばかり、という感想の学生もいました。まあ、いろいろな学生がいます。当然です。コロナ禍で旅行に行けないから、と思って私が講演などで出かけて撮った全国の写真を毎週の講義の初めに見せました。喜んでくれた学生もいましたが・・・。でも、よく考えたら、講演なん



↑1月30日に Medical Nutritionist WEB 講演会を開催しました。西口先生と私はインターグループのオフィスで、栗山先生はビデオで、講演しました。いい内容だったと私は思っているのですが、視聴申し込みは200人ほどでした。私はちょっと残念と思っているのです。まあ、こんなものかもしれません。共催・協賛していただいた、クリニコ、ニプロ、ニュートリー、武田薬品工業、大塚製薬工場、ありがとうございました。



↑うちの研究部門の中です。①高崎の小川くんにも送っていただいたら、②「栄養」マグ、③福井の服部先生にも送っていただいた坂本龍馬ゆかりの醤油、④高木兼寛の「病気を診ずして病人を診よ」、⑤坂本龍馬の刀剣、⑥ニプロのシーエルファイン（新型コロナ用次亜塩素酸水）、⑦お目目ばちくりネネちゃん人形、⑧岡田先生の静脈栄養、小越先生の経腸栄養（この二つとも持っている人はいないのでは？）、⑨松末先生に書いてもらった「栄養、栄養」の書、です。



↑明るい話題。高崎総合医療センターの飯塚くんがパパになりました。奥様、お嬢ちゃんの許可を得て出させていただきます。かわいい！これで、飯塚君、さらにがんばって仕事（臨床、研究など）に力が入りますね。論文も書きなさいよ。

ていうのは自慢話です。私はこれを知っている、そういう話になります。いろいろ考えると、講義や講演の内容、どうしたらいいのか、迷ってしまいます。でも、いろいろな評価があるのだから自分流を貫くしかないのです。

1月30日にはリーダーズの Medical Nutritionist WEB 講演会を開催。株式会社インターグループのオフィスから発信。西口先生の〔コロナ感染症患者専門病院の院長として思うこと〕、栗山先生の〔高度栄養障害症例に対する栄養管理〕、私の〔ニプロ IP エコーの開発と Wink sign〕の3題でした。西口先生の講演は、まさしく、今、聞きたい内容。赤裸々なコロナ対応の状況を聞かせていただきました。栗山先生の講演は栄養管理の本当の専門家としての話で、非常にわかりやすい内容でした。福井は大雪だし、コロナ問題もあって、ビデオ講演でしたが、丁寧にビデオを作成したことがよくわかりました。栗山先生の講演は、オンデマンドで、2~3回、視聴するともっと理解が深まりますよ。クリニコ、ニプロ、ニュートリー、武田薬品工業、大塚製薬工場に共催・協賛していただきました。ありがとうございました。私は全体的にいい雰囲気だったと思うのですが・・・登録者は約200人。もったいない！もっとたくさんの方に視聴していただきたい。オンデマンドでも視聴できますので、今からでも申し込んでください。次回は3月13日、土曜日です。講師も募集中です。



↑ 町立長沼病院の倉先生に送っていただきました。ホワイトアウト、病院の駐車場、家前の公園、マイナス15度で樹氷で真っ白になり幻想的、と送っていただきました。ありがとうございます。マイナス15度？私には信じられません。以前、シカゴでのA.S.P.E.N.に行った時、マイナス30度を体験しましたが、耳も痛くてたまりませんでした。



↑ 青森県立中央病院の管理栄養士、田沢くんに送ってもらいました。海が見える景色、寒そう。これは1月28日の写真で、暖かかったのでだいぶ雪が減り、大雪の時の5分の1になっていたとのこと。でも、すごい。田沢くん、ありがとうございます。いつも、いろいろ、ありがとう。コロナが終わったら呼んでください。仏が浦と恐山に行きたいので。



↑ 新潟厚生連小千谷総合病院の小林先生に送っていただきました。よくもまあ、こんな雪だらけの道路を運転できますね、そんな感じ。道路脇に積み上げられた雪がすごい。左下の写真、病院の駐車場で、雪の降り始めからずっと駐車していた車だとのこと。すごい。貴重な写真ですよね。ありがとうございました。

**小越先生**：今回もコロナの話から始めるのか？

**ゼン先生**：仕方ないですよ。コロナですべての状況が左右されているんですから。

**小越先生**：本当にそうだな。ところでリーダーズのウェブ講演会はどうだったんだ？コロナ専門病院の西口くんの講演もあったんだろう？

**ゼン先生**：まさしく旬の話でした。コロナ対応が、患者さんに対するものだけでなく、社会に対しても大変だということがよくわかりました。十三市民病院のスタッフの方々、それぞれの家庭もあるんですから。本当に苦労して対応しておられます。

**小越先生**：そうだろうな。

**ゼン先生**：西口先生は、ずっと病院の近くのホテルに泊まっているんです。本当、大変です。

**小越先生**：へええ、そうなのか。大変だな。偉いよ。

**ゼン先生**：本当に。私にはできません。

**小越先生**：栗山さんの講演も非常に興味深い話だったんだ。オレも視聴したかったよ。

**ゼン先生**：オンデマンドで視聴できます。申し込んでください。有料ですけど。

**小越先生**：有料なのか？企業のウェブ講演会は無料だぞ。

**ゼン先生**：その考えは間違いですよ。学会としては、お金がないのですから、無料は無理です。それに、企業の場合は、販売戦略の一つとしてなのです。根本的に違います。だからリーダーズらしい雰囲気で、と思って座長をしたんですが、どうだったのでしょうか。

**小越先生**：そういう気持ちで進行したんだ。きっと視聴者は理解してくれているよ。ところで、何人が視聴してくれたんだ？

**ゼン先生**：事前登録は約200人でした。私としてはちょっと残念なんですけど、まあ、そのくらいの方が視聴してくれたら、よし、とするか、そんな感じです。

**小越先生**：200人か。オンラインだから、もっと多くの人に視聴して欲しい、オレもそう思う。次回はもっと増えてくれたらいいな。

**ゼン先生**：そうですね。みなさん、忙しいんだから仕方ないです。

**小越先生**：そうかもな。それに、土曜日の午後の2時間だろう？それが問題なのかもしれない。

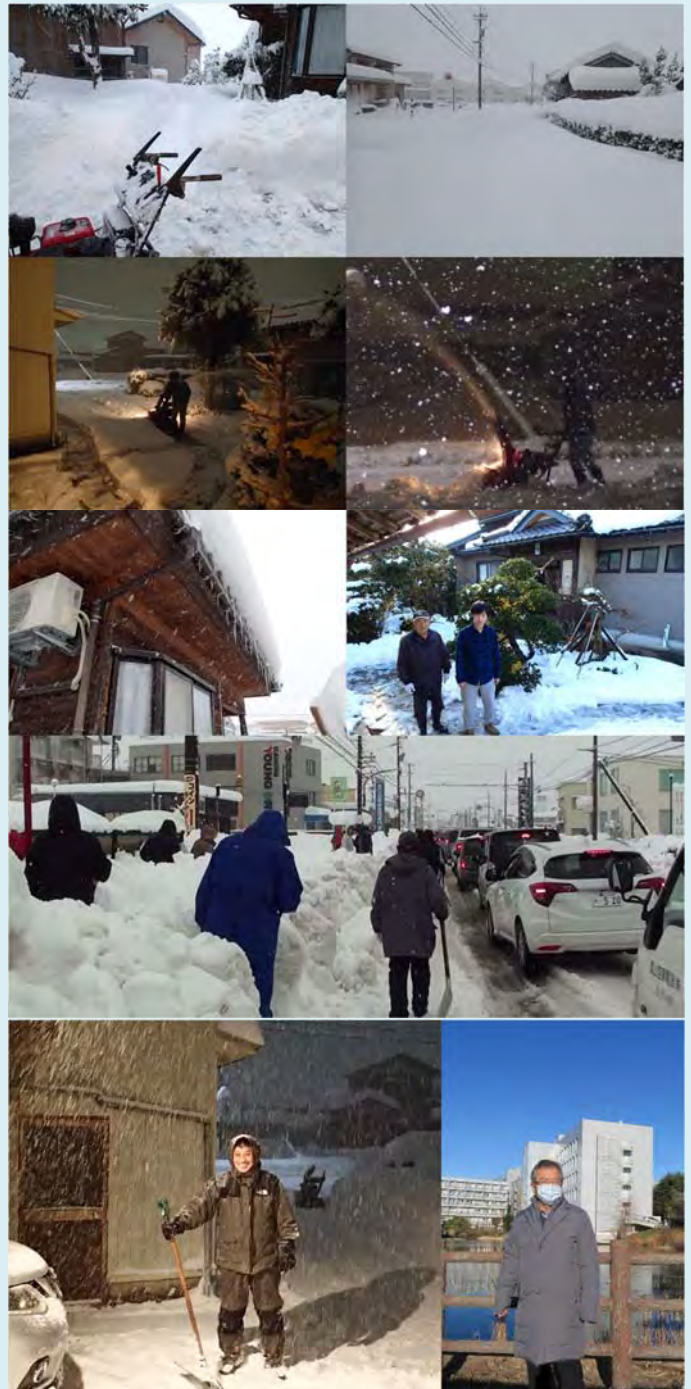
**ゼン先生**：でも、大勢にアンケートをして、やはり、こういう形が一番いいと判断したんです。それに、オンデマンドにもしていますし。それでもこのくらいの数だということは、やはり、

仕方ない、と考えるしかないのでしょうね。

**小越先生**：「コロナで大変なんだ、栄養？2の次、3の次」、そんな考え方の人が多くなっているのかもしれない。

**ゼン先生**：まあ、今の状況をみると仕方ないのかもしれませんが。でも、コロナ以外の患者さんのほうが多いんですよ。そこも考える必要があります。

**小越先生**：そこだよ。そこを忘れてはいけない。



↑ 富山の宮崎くんに送ってもらいました。富山の雪もすごかったんですね。雪かき？雪おろし？除雪？道路の除雪の雰囲気も大変。宮崎くんの、りりしい、かつ、男らしい写真を送ってもらったので、私は研究室の外へ出て、青空の下で写真を撮って送りました。阪大でも、この日はものすごく寒かったです。

- ゼン先生**：その通りですが、仕方ない、仕方ない、です。
- 小越先生**：仕方ない、仕方ない、か。大阪弁ではしゃあない、だろう？
- ゼン先生**：しゃあない、って大阪弁ですか？
- 小越先生**：だろう？オレは群馬県生まれだけど、しゃあない、なんて使わないからな。
- ゼン先生**：まあ、私も愛媛県生まれで、偽関西弁ですから。
- 小越先生**：だろうな。なんか、君のしゃべりは純粋な大阪弁ではないとオレも思っていた。
- ゼン先生**：西口くんには、いつも偽関西弁だと言われています。それはそれでいいのですが、エコーガイド下上腕 PICC 法の説明の時、「プローブで押さえて扁平化する、へしゃげるのが静脈だ」と説明していたんです。「へしゃげる」って、方言だそうです。
- 小越先生**：だろう？オレはずっと「ひしゃげる」を使っている。
- ゼン先生**：確かに、辞書では「ひしゃげる」です。
- 小越先生**：まあいいんじゃないか。「ひ」でも「へ」でも、意味が通じたら。
- ゼン先生**：でも、論文を書く時は標準語を使うべきでしょう？
- 小越先生**：論文？まあ、そうだな。しかし、君の、論文が随筆かわからん原稿では好き勝手な用語を使っているじゃないか。
- ゼン先生**：すみません。
- 小越先生**：まあいいだろう。それより、いよいよ「**静脈経腸栄養ナビゲータ**」が発売されるんだってな。
- ゼン先生**：そうなんです。予約受付中になっています。
- 小越先生**：へええ、予約販売か。照林社、かなり力を入れているんだな。
- ゼン先生**：そう思います。サブタイトルが「エビデンスに基づいた栄養管理」で、本の帯は「“本気”で取り組む栄養管理」「静脈経腸栄養法のバイブル登場！」です。
- 小越先生**：へええ、気分が入っている表現だな。
- ゼン先生**：表紙も帯もいいですよ。
- 小越先生**：確かに、表紙も帯も大事だ。
- ゼン先生**：照林社がデザインを送ってくれたんですが、最終決定は栗山先生にしてもらいました。照林社の有賀さんが、女性の目線は大事だ、と言っていましたし、私、センスがないので。
- 小越先生**：君にセンスがない？それはわかる。今や、栄養の興味をもってきているのは医療スタッフとしても女性のほうが多い。
- ゼン先生**：看護師、管理栄養士は女性のほうがはるかに多いの



↑2月に発売します。是非、購入して、臨床の現場で使ってください。本気で取り組む栄養管理。静脈経腸栄養のバイブル。本気で編集しました。



↑福井の栗山先生に送っていただきました。ものすごい雪。確か、2年前、37年ぶりの大雪だったのですよね。2年しか経っていないのに大雪。2年ぶり？私、申し訳ないのですが、雪になじみがないので「真っ白できれいだ」と思うのですが、そこで暮らしている人にとっては大変以外の何物でもないのでしょうか。すみません。



↑福井の栗山先生からの写真。左は大雪で、道路に雪が積み上げられています。これは、通れないでしょう。右は、その何日か後の写真だそうです。道路の雪はなくなっていますが、道路脇の雪山がすごい。これって、いつになれば解けるのですか？

は間違いないでしょう。

**小越先生**：そうだな。ところで、発売日はいつなんだ？

**ゼン先生**：2月11日です。

**小越先生**：2月11日か。建国記念日じゃないか。静脈経腸栄養で国を建てる・・・盛り上げよう、そんな雰囲気か？

**ゼン先生**：言い過ぎです。しかし、栄養が国の繁栄の基礎であることは間違いありませんよね。

**小越先生**：その通りだ。明治になってから、外国人と日本人の身体の違いが明らかになって、戦争に勝つために外国人に負けない身体を作る、体力でも追いつくには栄養が大事、となった歴史がある。

**ゼン先生**：なるほど。

**小越先生**：それから、第二次世界大戦後の復興の時だって、栄養が大事、それが国家としての事業になったんだからな。

**ゼン先生**：アメリカから大量に脱脂粉乳が入ってきたんですね。

**小越先生**：そうだよ。やっぱり、栄養が国造りの基礎であることは間違いないんだよ。

**ゼン先生**：そうすると、高木兼寛、佐伯矩、といった、歴史的に「栄養」に注目した人のことも知らないダメですね。

**小越先生**：ははあ。2月に出版予定の「漢字：栄養のルーツをたどって」のお知らせをしているんだな。

**ゼン先生**：はあ、まあ、そうです。是非、購入して読んでください。回し読みはダメです。自分で購入してください、それを言いたいんです。

**小越先生**：わかったよ。以前、西口くん「TPN レクチャー」

を献本したら、NSTで回し読みをして、購入してくれなかった、ということが言いたいんだろう？

**ゼン先生**：はあ、まあ、そうです。

**小越先生**：「栄養管理」に携わる人、誰もが読むべきだ。それに、医療関係者以外にも読んで欲しい、オレもそう思っている。「栄養」って、いろいろな意味で使われているだろう？

**ゼン先生**：そうです。「心に栄養を」「本は心の栄養」「身体の栄養・頭の栄養・心の栄養」などの表現もありますから。

**小越先生**：そうだな。「栄養」という漢字が使われるようになって100年しか経っていない、誰が「栄養」という漢字

を提唱したのか、なんて、ほとんどの人が知らないだろう。

**ゼン先生**：佐伯矩が造語した、愛媛県伊予市の「栄養寺」に由来する、という考え方もありますが。

**小越先生**：それを解明した、という内容だろう？

**ゼン先生**：はい。これ以上はここでは言いません。買って、読んでください。そうそう、この本の表紙もいろいろ工夫したんです。

**小越先生**：どういう工夫をしたんだ？

**ゼン先生**：出版してからのお楽しみ、とさせていただきます。

**小越先生**：とにかく、買ってください、なんだな。

**ゼン先生**：もちろんです。〔漢字「栄養」のルーツをたどって〕を本として出版すると根津先生に話したら、笑いながら、そんな本、100冊も売れんだろう、と言われたんですけど。

**小越先生**：ハハハハハ。100冊か。大丈夫だ、100冊以上は売れる、オレはそう思っている。

**ゼン先生**：100冊を目安にするつもりはありません。目標は1万冊です。日本人、1億人が、ふつうに「栄養」という用語を使っているんです。そのルーツを知らなくてはならないでしょう。

**小越先生**：それは君の論理だ。

**ゼン先生**：そういうことですか。ということは、先生も買う気はないんですね。

**小越先生**：オレには献本してくれるんだろう？

**ゼン先生**：いいえ、しません。自分で買ってください。

**小越先生**：それは冷たいだろう。

**ゼン先生**：冷たいと言われても・・・。ここで、いい本だ、面白

2月 発売予定



井上善文

漢字「栄養」の  
ルーツをたどって

フジメディカル出版

い本だ、だから、みなさん、買ってやってください、そう言ってくれるんだったら、献本しますけど。

**小越先生**：わかった。正直な気持ちとして言おう。〔井上善文が書いた本《漢字「栄養」のルーツをたどって》は、非常に興味深い本です。是非、購入して読んでください。漢字「栄養」のルーツはどこにあるのか、ミステリー的な雰囲気もありますから。みなさん、買ってやってください。〕

**ゼン先生**：ありがとうございます。1番先に献本・・・いや、2番目か、3番目か・・・献本します。

**小越先生**：一番じゃないのか？ま、いい。もらえるのなら、何番でもいい。ところで、今回の話題は何なんだ？

**ゼン先生**：そうですね。また新しい用語を作りました。

**小越先生**：新しい用語？また？前回、カテーテルテーパーに対してエルフィット、L-Fitを造語したばかりじゃないか。今度はなんていう用語なんだ？

**ゼン先生**：Wink signです。

**小越先生**：Wink sign？どこで使うんだ？

**ゼン先生**：さっき「ひしゃげる」「へしゃげる」の話をしたでしょう？あれです。プローブで押さえると静脈は「ひしゃげる」、それをWink signと造語したんです。

**小越先生**：なるほど。わかるな、それ。プローブで押さえると静脈はひしゃげて、放すと元に戻る、まるでウィンクしているような感じだ、ということか。いいな、それはいいと思う。

**ゼン先生**：でしょう？

**小越先生**：プローブで押さえてウィンクするのが静脈で、ウィンクせず、拍動が見えるのが動脈か。それはいい。

**ゼン先生**：ありがとうございます。このアイデアを東宝塚さとう病院で私の外来を担当してくれている看護師の川崎さんと医療クラークの乾さんに話したら、いいですね、それに、おしゃれですね、と言ってくれました。

**小越先生**：なるほど。おしゃれか。すぐに広がるぞ、ウィンクサインは。イメージがいい。

**ゼン先生**：ありがとうございます。この話は、既に、臨床栄養の連載にも書きましたし、静脈経腸栄養ナビゲータにも書きましたし、次のMedical Nutritionist of PEN Leadersの話題にも書きました。

**小越先生**：そうか。いろいろな小ネタを入れて原稿を書いたんだろうな。

**ゼン先生**：はあ、まあ、そうです。「ウインク」か「ウィンク」か。「イ」は大文字か、小文字か、などなどです。とにかく、読

んでください。

**小越先生**：わかった。今回はそれだけか？

**ゼン先生**：今回もENFitとL-Fitの話題があるんです。厚労省で1月22日にENFitについての会議がありました。

**小越先生**：へええ。例のミキサー食注入のためにL-Fitを残して欲しい、その話だな。

**ゼン先生**：結論は、切り替えを2021年11月末までとしていたのを、2022年11月末までに1年間延長し、課題の整理と対応策を検討する、だとのことですよ。

**小越先生**：なんだ。先延ばしにしたいだけじゃないか、それは。

**ゼン先生**：先生もそう思われますか？

**小越先生**：当たり前だ。2019年11月から始めて2年間で完全にL-FitをENFitに代える、と日本全体で動いていたんだらう？2021年11月まで、という期限付きだから必死でそのようにしようとしていたんだ。それなのに、1年延長するとなると、気合が抜ける。切り替えでトラブルが起こる期間が延びるだけじゃないか。

**ゼン先生**：本当、そうです。ミキサー食注入用や、小児の特定の領域ではL-Fitを残す、そう決定すればいいことです。それなの



に、期間を先延ばしにするだけって、なんの解決にもなりません。逆に、企業は困ります。計画の練り直しをしなければなりません。2021年11月でL-Fitの生産を終了しようとしていたんですから。

**小越先生**：そうだな。それに、悪いけど、会議のメンバーがこの問題を本当に理解しているんだろうか。

**ゼン先生**：厚労省からこの情報はオープンになっているので、委員と参考人のリストは出ています。これを見ると、委員は誰も理解できていないでしょう。参考人は、JSPEN から二人出ていますが、L-Fit を ENFit に変更しても問題ないという論文を書いて主張している学会です。名古屋大学の安全管理推進部の長尾教授は、安全管理の専門家で、栄養管理の専門家ではないでしょう。永江先生は、もちろん、L-Fit を残す必要がある、と主張しているので、根本的に理解しているのですが。

**小越先生**：まあまあ。厚労省の仕事だから、こういうものだ。

**ゼン先生**：JSPEN はどういうスタンスで意見を出したんでしょうか。

**小越先生**：論文として「ISO コネクタでのミキサー食の注入は現行コネクタと変わりなく可能と判断された。」と発表していたな、確か。

**ゼン先生**：そうです。日本語の論文2つ、英語の論文1つ、それから、記事みたいなもの、すべてで ENFit に変更しても問題ない、と発表しています。ミキサー食での検討も同じ結果です。だから、変更しても何も問題ないと思っていた医療者は多いと思います。

**小越先生**：1年延期になったということは、その主張を変更したのか。

**ゼン先生**：そういうことなんじゃないでしょうか。

**小越先生**：それじゃあ、あの論文は何だったんだ。最初は、ミキサー食の注入では問題が起こる可能性があると思っていただろう？確か、そう主張していたよな。だけど、流れが変わった。だから、実験的に検討してみた。その結果、何も問題ないという結論を出したんじゃないか？

**ゼン先生**：その通りです。論文を読んだ時、正直、何か、違和感があったんです。検討の裏に何かの意図が働いているのではないかと感じていたんです。前回は話題にしましたが、JSPEN は学会として ENFit への変更を後押ししている、JSPEN が主導してこの変更を実現しようとしている、その戦略の結果としてあの論文になったんだと思います。

**小越先生**：まあな。論文には、ある程度、そういう意図が含ま

れている場合はあるんだけどな。

**ゼン先生**：それは否定しません。でも、その意図を上回る学術的な検討結果を出して、学術的な論文が成立するんじゃないですか？

**小越先生**：その通りだ。おそらくは、いろいろな企業の影響もあるんだろうな。

**ゼン先生**：多分。だから、利益相反の問題が出ているんです。

**小越先生**：まあ、こういう仕事をしていると、多かれ少なかれ、利益相反という問題がからんでくるよ。オレはエレンタールの件があったし、君だって、いろいろ COI はあるだろう？

**ゼン先生**：あります。だから、COI を開示して、その上で論文や発表内容を評価してください、となるんですよ。

**小越先生**：そうだ。どんな思惑があったのか、それは知らないけど。

**ゼン先生**：それを差し引いても、あれだけ論文として主張して



↑愛媛県東温市の「白猪の滝」です。滝が凍っています。四国がんセンターの管理栄養士、岡崎さんに送っていただきました。息子さんが撮影したとのこと。左は、インターネットから勝手に使わせていただきました。すみません。私はこの滝のことは知りませんでした。愛媛生まれでも、愛媛に知らないところがたくさんあるのですよね。



↑佐賀好生館の山内先生に送ってもらった写真。夏休みに「しまなみ海道」を家族でサイクリングした時の写真だそうです。いいなあ。景色もいいし、天気もいいし、家族そろって。しかし、私、たぶん、この橋を自転車で渡ることはできません。高所恐怖症ですから。脚力はまだまだいけると思いますが、それにしても、北海道、青森、新潟、富山、福井の雪景色とは対照的ですよ。

いるんです。ちゃんと主張してくれたんでしょうか。

**小越先生**：確かに、それは重い内容だと思う。

**ゼン先生**：そうですね。論文って、それだけの重みがあるはずなんです。ある意味、学会としてのスタンスを、ちゃんと、理由を明確にして発表するべきです。それが医学者として、医学の学術団体の使命だと思います。

**小越先生**：とにかく、ENFit への変更を1年延長したんだから、厚労省にはちゃんと対応してもらわなくてはな。

**ゼン先生**：そうです。混乱の期間が長くなってしまうので、大変ですけどね。その代わりに、ちゃんと議論をして、L-Fit が使える領域をきちんと決めてもらわなくては。1年延長だけでは困ります。

**小越先生**：その通りだ。ミキサー食を使う場合に限ってもいいかもしれないが、とにかく、L-Fit でないと栄養管理を実施するのに困る領域があることがわかったんだからな。

**ゼン先生**：そうです。本当、**ミキサー食の注入用にはL-Fitを残す**、そこをきちんとしてくれないと、この議論は間違った方向へ進むと思います。厚労省は、ちゃんとしてくれる、そう期待しましょう。

**小越先生**：そうだな。厚労省には、日本の英知が集まっているのだからな。

## 【今回のまとめ】

1. 2021年、早く新型コロナ問題が解決して、以前のように活動できるようになる、今は、それを待つしかないのです。みんなで感染しないように気を付ける、その心が一番大事だと思います。
2. 1月30日にMedical Nutritionist WEB講演会を開催しました。いい内容だったでしょう？リーダーズらしい雰囲気だったと思っています。まだ、オンデマンドでの視聴はできますので、申し込んでください。
3. エコーで静脈か動脈かを判断する時、静脈は圧迫すると扁平化する、これを**Wink sign™**と命名しました。静脈は圧迫するとウィンクするのです。この用語、使ってください。
4. エルフィットからエンフィットへの転換の期限が一年延びました。困る企業、困る病院が出てくると思います。混乱の期間が延びるだけです。
5. 大事なことは、全体をENFitに変換しなければならないのだからそれを実行し、特例として、ミキサー食注入用にはL-Fitを残す、と決定することだと思います。